

# 「子どもたちを支える PTA 活動」 — 日常の活動を中心に —

勝浦市立上野小学校 PTA

## 1 はじめに

上野小の創立は明治7年。平成18年4月には名木小学校・荒川小学校、平成28年4月には清海小学校と統合している。そして、来年度、令和8年度には興津小学校と統合する予定である。令和7年4月現在、児童数は79名、学級数は8学級、県費負担職員数は14名である。本校は、山間部に位置し、学校周辺は水田に囲まれた自然豊かな農村地帯である。また、3小学校の統合に伴い、上野地区・名木地区・荒川地区・清海地区・区域外（ミレーニア等）と学区が広いのが特徴である。そのため、多くの児童はスクールバスで登下校しており、全校児童79名中55名（約70%）がスクールバスを利用している。また、放課後ルームを利用する児童も多い。

## 2 テーマ設定の理由

本校の PTA の活動の中心は、子どもたちの支援と保護者による PTA 活動の推進である。そのため、各種行事や活動の支援、施設・設備の充実、環境の整備など、専門部の日常の活動を中心に報告することで、他校との情報共有を図りたい。

## 3 実践の内容・活動の概要

### （1）総務

- ・年5回の定期総務会で、PTA 会長を中心に、専門部の活動や PTA 主催の行事の企画・運営について話し合う。また、PTA 活動の様々な連絡・調整を図っている。
- ・年2回の「評議員会」の企画・運営や役員決めのサポートをしている。
- ・令和8年度の興津小との統合に向け、PTA 活動や会則の見直しなど準備委員会で進めている。

### （2）厚生部

- ・5月と8月の年2回の「奉仕作業」（校地内の除草作業など）の運営、9月と1月の年2回の「資源回収」の回収・運営を行う。特に、「資源回収」は市内の学区の区長に協力の文書を配付し、地域に幅広く協力を求めている。

### （3）広報部

- ・10月と3月の年2回、PTA 広報紙「せーのっ！！」を発行している。学校行事・PTA 活動だけでなく、子どもたちの学習の様子（校外学習など）も伝えている。また、広報部員が集まる回数をできるだけ減らし、効率的に作業が進められるようにした。
- ・学校行事の写真撮影を行った。（6月には運動会）

#### (4) 研修部

- ・9月に「家庭教育学級」を開催し、その企画・運営を担当している。昨年度は、子どもたちの「海洋教育」の一助として、「しんかい6500」のパイロットを講師に招き、保護者と全校児童で「海底から見えるわたしたちのくらしと海」で講演を拝聴した。
- ・各種、研修会や講演会などに研修部員が参加し、見聞を広めている。

#### (5) 保護者や地域が関わる行事や活動

- ・例年、各専門部が中心となって、運動会のグラウンド整備や用具係、決勝・審判係の補佐、駐車場係を担当している。また、今年度は、コロナ禍以来中止していたPTA競技（綱引き）を復活させ、競技に保護者も参加した。

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・学区が広く、PTA活動が難しくなる中、専門部員や会員が協力して参加できる活動を行っている。
- ・特に「家庭教育学級」では、子どもたちの「海洋教育」の一助になるような講師を招き、保護者だけでなく子どもたちも講演を聴けたことがよかった。

#### (2) 課題

- ・PTA活動に積極的に参加する保護者とそうでない保護者の温度差が大きい。
- ・興津小との統合後、さらに学区が広がるので、学校・地域・家庭の関わりが薄くなってしまいうという懸念がある。
- ・統合した後も全校児童数は減り続けるので、家庭数に見合ったPTA活動を模索していく必要がある。
- ・居住地域に差があるため、交通指導や非常変災時の対応は難しい。

### 5 おわりに

「働き方改革」が叫ばれているが、PTA活動も無理・ムラ・負担の少ない内容に工夫していく必要がある。しかし、そのことは単に活動をなくしたり減らしたりすることではない。「子どもたちを保護者や地域が支える」という視点で考えていかなければならない。

また、統合によりさらに広がる学区の問題がある。学校の近くに住んでいる子どもたちの方が少なく、様々な地区から集まってくることになり、必然的に保護者同士のコミュニケーションも希薄になることが予想される。こうした状況を踏まえ、時代や地域の実態に合わせたPTA活動を考えることが不可欠であると考えます。